草苑保育専門学校 2024 年度 教育課程編成委員会 第 1 回 議事録

日　時：2024 年 9 月 10 日(火)15:00～17:00
場　所：草苑保育専門学校 大会議室
出席者：福元 真由美　　青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授　　②
　　森田 陽子　　日本女子体育大学体育学部子ども運動学科教授/日本幼児体育学会理事　　①
　　森 文稔　　社会福祉法人さきたま会　薫る風・上原こども園　総括責任　　③
　　阿江 美知代　　教育課程編成責任者／草苑保育専門学校校長／草苑学園理事
　　竹原 有基　　草苑保育専門学校 教務部長
　　浅井 忍　　草苑保育専門学校 専任講師／就職支援センター長
　　徳田 多佳子　　草苑保育専門学校講師　　②
※企業等委員種別：①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員
司　会：竹原
記　録：浅井

1．議事と議論の要旨

第一部：報告
（1）2024 年度委員紹介
（2）資料確認
（3）2023 年度第 2 回議事録確認
（4）校長挨拶
・2023 年度議事録からの課題、新たなカリキュラムについて本格的に取り組む。
・地域との関りをより大切にしたい。地域のお祭りに学生と参加した際、草苑幼稚園しか知られておらず、専門学校の知名度がないことにショックを受けた。
・退学者が増えているのが大きな課題。

（5）討議
① 保育士コースの魅力発信について
2025 年度、保育士資格のみに特化したコースを新設予定。週 4 日授業、科目が少なく学費も約 20 万円安いと、幼保コースとの差別化を図っているが、現状の応募状況が奮わない。保育士コース独自の科目としては、「保育ゼミⅠ・Ⅱ」という新規科目で、前期はアカデミックスキルの基礎や

自校教育、高校と専門学校の架け橋となるような教科プログラムを組み（大学の初年次教育、特に明星大学「自立と体験」などを参考にしている）、後期はそこで身に付けたものを基に、草苑幼稚園や近隣の保育所を始めとした現場と連携した体験プログラムを組む予定。
　保育士コースならではの魅力発信に繋がるカリキュラムの考え方についてご意見をうかがいたい。

・初年次教育として、学校の歴史を振り返るようなもの、卒業論文を書くにあたって身に付けるべきスキルなどを伝えている。また附属幼稚園や保育園で子どもを理解し、現場を知る、机上から実践につなげる基礎段階として位置付けている。
・大学 1～4 年で段階的にアカデミックスキルを身に付けるようなカリキュラムを組んでいる。レポートの書き方、情報ツールの使い方などを学びながら、卒業研究につなげていく。2 年次では学術論文や小論文を読み、クリティカルリーディングを始めていく。
・後期の体験プログラムでは、草苑がどのような保育を大事にしているかを伝えていくのがいいのではないか。
・母校愛のある卒業生に授業をしてもらうのは、愛情が伝わりやすいのではないか。
・卒業生に素晴らしい世界で活躍する人がいるというのを見せ、ロールモデルになる先生がいると知らせるのは、保育者になるイメージがつかみやすくなり、いいのではないか。逆に、退学者が多く出ているのは、卒業後の姿がイメージしにくいというのがあるのではないか。
・学習意欲に満ちている新入生のうちに、何かに触れる体験は原体験になる。
・学生が現場で働く卒業生インタビューに行き、動画に編集するなどして、学習成果を学校全体で共有するような形も考えられる。
・現場の先生は学校を学生で見ている。
・初年次教育のオリエンテーションで理事長の講話も入れている。初心をつかみ、育てていくことで、退学者の課題解決にもつながるのではないか。学校として、入学後に魅力を伝えきれていないのかもしれない。
・幼保コースから保育士コースへの転コースで、退学を考えている学生の在学が維持できるかもしれない。先ほど、保育士コースには通信制高校からの入学希望者が多いという話があったが、定時制の保護者の方からの話で、起立性調節障害等の心身のバランスを崩す子が多いと聞いたことがある。学習面にとどまらず、心身のサポートを受けながら資格を取ることができるというのはアピールになるのではないか。
・起立性調節障害等の理由で休んだ場合には課題を出す、レポートを出せば単位を取得可能とする学校もある。
・週 4 日のコースということで、社会人も受け入れる、シニア、学び直しの人に向けたマーケティングも考えるべきではないか。

② 地域連携、産学連携

保育士コースの魅力向上と繋がる話で、学校の知名度を向上するための方策として、従来から進めている地域連携の他に、産学連携も進めたい。また、地域で行われている子ども向けのワークショップなどにも積極的に参入していきたい。学校として素材は多いので、活かし方を考えたい。地域と企業の連携の取り方についてご意見をうかがいたい。

・保護者との連絡等を PC やスマートフォンのアプリ等で行うためのスキルが、今後の保育者にとって不可欠。産学連携の対象に ICT 関連の企業があれば、アプリの試用などのつながりが持てれば、お互いにとって有益なのではないか。
・学校としては、就職関連のスタートアップとの連携を検討している。また、「保育内容総論」などの授業内で、実際にコドモンやバスキャッチなどのアプリを使ってみるものを考えている。ChatGPT などの生成系 AI についても、必要になれば使えるようなスキルとしては教えたい。
・園や施設の ICT 関連における対応状況は、必要なものなら受け入れるところが増えている。ただし、コピペが横行するなどの問題も想定され、そもそも論として連絡帳などがどうあるべきか、保護者とのコミュニケーションをどう取っていくかを考え直さなければならない時期にきている。
・地域連携として、地域の方対象の社会人講座を実施している。6 回で 12,000 円など安価なもの。逆に地域の方のイベントに呼んでいただき、学生をボランティアで派遣するなど多彩な形をとっている。
・行政、町内会、近隣の会社にどんどん声をかけていくのがいい。
・町内会の祭りへの参加、オレンジリボンの普及活動など、区との連携が進んできている。Instagram である程度広報もしているが、近畿大学の広報のようにどんどん伝えていくことが必要だとも考えている。
・受験生の動向を調べると、情報を得ているのは圧倒的にホームページからが多い。そこでのアピールが重要。
・学生に Instagram 担当者を設けている。担当学科長などによるチェックはあるが、基本的に学生が考えてやっている。授業内容なども伝えていて、教員が更新するよりもスピード感もある。学校から配布したタブレットを使用してもらっている。

③ 専任講師の研究推進について

本校は、青山学院大学を指導大学に仰ぎ、指定教員養成機関として幼稚園教諭二種免許状を取得できる教職課程を持っている。そのため、文部科学省による教員審査があり、そこでは活字業績が求められる。教職課程の科目を担当する教員には論文を書いてもらう必要があり、毎年刊行している研究紀要、年間 50,000 円の研究・研修費支給、全国保育士養成協議会の研修への参加補助などを行っているが、なかなか論文を書いてもらうに至らない。それ以外にどのような振興策があるか、ご意見をうかがいたい。

・論文が必要な教員には、何かインセンティブを出すほうがいいのでは。

・研究倫理について厳しく見られるようになっている。倫理委員会を立ち上げてもらえると、非常勤講師も利用できてありがたい。
・歴史研究は倫理を通さなくて良い。テーマ設定を考えるのも重要。
・時間を割けない先生におすすめなのは、複数の先生でプロジェクト化すること。1 つのテーマで 2、3 人の筆頭者を立てて何本か書く形。
・研究紀要を毎年出しているなら、年度のテーマを決めて、多方面からアプローチするのもいい。
・論文を書くことに抵抗がある方は、まずは学会でポスター発表をしてみるなど、スモールステップで段階を踏んでいくのはどうか。

④ 安全危機管理について
　災害が増え、大きな地震も想定されている。文科省からは危機管理マニュアルやマニュアル作成の手引き、指針などが示されている。保育所等でも災害対応の案内が保護者に向けて出されたりもしているが、各大学や園などではどのような対策をしているかうかがいたい。

・日頃学生に使ってもらっているポータルサイトで、安否確認を行えるようにしている。メールで登録としておくと、ひらがな一文字で返答できるようなシステム。避難訓練では、地域も呼んで練習したり、幼稚園も一緒に行ったりするといいのではないか。
・学生だけでなく、非常勤の教職員に至るまで学校に関わる人たちに広く安否確認が行えるような形が望ましい。

⑤ その他
森：英国の大臣が園に視察に来て、話を聴いた。イギリスの保育ではナーサリーの役割が弱く、それは幼児期の体験の弱さが問題なのではないかと考えられている。その点で進んでいる、日本とスウェーデンを見に行こうというもの。イギリスの良い点は、子どもを子ども扱いせず、ひとりの人間として尊重するところだという。先方によると、日本の保育の良い点は以下の 3 点。
・紙芝居（イギリスには紙芝居がない）
・食育
・インクルーシブ（障害の有無にかかわらず）

2. 次回予定：2025 年 3 月 4 日(火)15:00～17:00
　場所：草苑保育専門学校大会議室

3. 閉会